

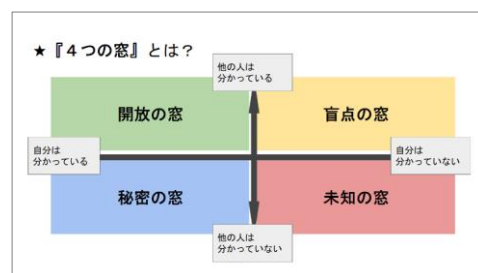
教科書購入を終え、いよいよ終業式。一年間を振り返っている人も多いのではないのでしょうか。それとも、4月からの新たな年度を思い描いているところでしょうか。今年度の最終号では、3学期のホームルーム活動のふりかえりをし、これからの皆さんへのエールとしたいと思います！

◎ 1年生 私ってどんな人？～「4つの窓」からのぞいてみよう！

1年生は、自己理解と他者理解をテーマに、さまざまなワークに取り組みました。自分自身のことはわかっているようではなかなか説明しにくいものですが、授業では、

- ① **短所は長所に読みかえることができること**
- ② **自分自身ではわからない「良さ」も、周囲からは見えていること**

を、「4つの窓」(「ジョハリの窓」：図参照)などを用いて確認しました。自分らしく生きるためにも、豊かな人間関係を築いていくためにも、自分も周囲も、肯定的に受け止めて認め合うことができるようになりたいですね。自分を大切にする。その手がかりをつかめたのではないのでしょうか。



＜皆さんの感想より＞

- 普段、このように人から見た自分を学べる機会がなかったので、とても良い体験になったと思います。私はあまり自分に自信がなく、特に「これ！」といった長所や特技もないですが、今回の授業で自分が知らなかった、または気付けなかった長所がたくさん見つかったので嬉しく思いました。たくさん長所を見て、見つけてくれた友だちに感謝です。周りの目がすごく気になってしまう私にとっては、とても有り難いことで、とても安心した気持ちになりました。
- 自分では「こんな自分いやだな」と思ったり、考えたことも思ったこともなかったことも相手に長所として書いてもらっていたり、自分から見た自分と相手から見た自分は全然違うんだなと思いました。
- 今までよく「長所を書け」と言われても思いつかなくて困ったことがあったけど、今日の授業を通して、マイナスに考えていたこともプラスになると分かった。友だちからどう思われているのか、自分が気づけなかったことがたくさん出てきて嬉しかった。これから自分の長所も友だちや他の人の長所もすぐ見つけられると思う。それを今日のように伝えてみたいと思った。
- ふだんは自分の悪いところに目がいきがちだけど、自分の良いところを見つけることでポジティブになれると思いました。良いところをほめてもらえた時は嬉しいので、これからは周りの人でいいなと思うようなことがあれば相手のことをほめられるようになって、お互い良い気持ちになれたらいいなと思いました。



(裏面あり)

◎2年生『教科書無償化運動』から学ぶ



義務教育における教科書無償給与を目指す運動は、1960年代に高知市で始まり、「すべての子どもたちに学習をさせてやりたい」と強く願う人々が、憲法26条を根拠にしてその実現までこぎ着けた運動です。

この運動は、人々が権利意識に目覚め、連帯して行動したことに大きな意義がありました。法律が改正されて社会が大きく変わり、現代に生きる私たちも、教科書無償という恩恵を受けることになりました。今、周囲や社会で「大切な権利がないがしろにされている」と感じる問題はありませんか。それを見抜ける人権感覚を磨き続けるとともに、集団や社会の幸せのために、大切な権利を守っていきましょう！

＜皆さんの感想より＞

- ④ 自分が小中学生の頃あたり前に使っていた教科書をめぐって、こんな闘いがあったと知り驚きました。自分たちの持っている権利を正しく主張して、それまでの常識をくつがえし、無償化を実現していて感動しました。
- ④ 教科書が無償になるまで、多くの人々の団結やつながりがあって成功につながったということを知りました。このようなことは全ての人の幸福にとっても大切なことだと思いました。
- ④ 強い気持ちで粘り強く主張することが大切だなと思いました。そして、それなりの根拠や信念を持つことが大切なんだとも分かりました。これから自分で考えて行動するときは、しっかり根拠を持とうと思いました。
- ④ もっとみんなが対等な関係で安心して暮らせるように、今の若い人たちが自分のことだと思って考える必要があると思いました。よりよい世の中になるよう、私もできることがあれば参加したいです。
- ④ 1年間を通して権利についての知識が深まったと感ずることができました。一人一人が自由であるべき権利を制限されているということは、不満をもっている人がいるということだと思うので、生徒間や先生方とでできる対策を考えて取り組んでいくと、この先の学校生活や日常生活が楽しくなると思います。

＜人権教育推進委員の先生からのメッセージ＞

- ◆総務部長：高下先生より 「先入観は罪、固定観念は悪」。プロ野球の名監督、故 野村克也さんが残した名言です。時代の変化とともに我々も変化しないといけませんね。邇摩高校の伝統精神のひとつ「仁心（人を思いやる心）」を忘れずに。さらにより学校にしていきたいと思います。
- ◆中澤教頭先生より 『言葉』は、大きな力を持っています。何気なく発した言葉が人を勇気づけていたり、時には、人を傷つけていたり……。言葉は、魔法にもなり、刃物にもなります。顔を見て直接話す言葉、SNS等を通して、文字だけで話す言葉など様々な言葉があり、受け止め方も様々です。私も意図しない受け止め方をされ、相手に辛い思いをさせたことがあります。人を元気にする言葉、明るい気持ちにする言葉を使うよう心がけています。皆さんも『言葉』をきちんと選んで使うこと、そして、人の言葉の「真意」を色々な角度から考えて受け止めるようにして欲しいと思います。

*生徒の皆さん、保護者の皆さま、今年度もお読みいただきありがとうございました！

この便りが教室や家庭等で「人権」について語り合うきっかけになれば幸いです。＜人権教育推進スタッフ：森脇＞